

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

東北公益文科大学は、日本初の「公益学」の創造と実施に基づく教育・研究・社会貢献を掲げ、平成13(2001)年に山形県庄内地域に開学した。当時の庄内地域には、山形大学農学部のほか4年制大学がなく、本学は長い間の住民の要望により、山形県と庄内地域市町村が財政支援を行い、施設を整備した後、学校法人が運営する「公設民営」の大学として設立された。設立にあたり、学則第1条に本学の目的を「社会的利益調和の追求と、公益の研究や実践を通じた国際連携の理念のもと、深く専門の学術を教授し、社会と時代の要請に応え得る有為の人材を育成するとともに、地域の特性を活かした学術研究の振興、文化の向上に寄与することを目的とする。」と定めている。

また、「尊重し調和へ」を本学の基本理念として、次の3つの使命を定めている。

・人材育成(教育)－「知を咲かす」

公益の視点から、豊かな教養と専門性を身につけ、地域や国際社会の課題に挑戦する公益人を育成します。

・公益学の確立(研究)－「知を結ぶ」

さまざまな学問を深めるとともに、公益の視点から学術的に議論し、公益社会を導く原理、知識、実践スキルを「公益学」として体系化します。

・地域共創(貢献)－「知をひらく」

社会の一員として、市民との知的交流を積極的に展開し、共に、地域課題の解決や教育・文化の向上を目指し、行動します。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

本学の設置目的、理念及び使命を実現する一環として、国際学部 国際コミュニケーション学科を令和8年4月に設置する予定としている。

国際コミュニケーション学科は、グローバル化が進み地球規模の課題が拡大・複雑化する現代社会において、言語運用能力と国際社会に対する洞察力をもち、異文化や自国の文化への深い見識のもと、文化の違いを超えた交流を促進し、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成することを設置の目的としている。

また、国際コミュニケーション学科では「英語学・文学領域」「多文化理解領域」「国際社会領域」の3つの領域の学びを通して分離横断的な視点から、グローバル社会と地域社会をとらえるための知識・能力の習得を目指している。

・英語学・文学領域：英語の文学作品や英語そのものの歴史や構造の理解を通して、英語を体系的に深く学ぶ領域

・多文化理解領域：自国の文化と異文化を理解し、共生に向けた方策を学ぶ領域

・国際社会領域：国際社会における課題の理解と、課題解決に向けた方策を学ぶ領域

（2）教員養成の目標・計画

①大学

本学の目的にある、社会と時代の要請に応え得る有為の人材を育成するとともに、地域の特性を活かした学術研究の振興、文化の向上に寄与することを踏まえ、本学における教員養成の目標を、地域の人々と連携して、地域を牽引していく実践力を備えた教員を養成すること、と定める。

また、この教員養成の目標を達成するための計画について、次の3つを設ける。

- ・学生同士でのグループワークの実施や成果を発表する機会を多く取り入れた授業により、自己の考えを深め、発信する力を養う。
- ・必修の応用演習科目により、地域の課題を発見・分析し、問題解決への解を見つけ、提言を行う能力を涵養する。
- ・本学の教育推進センターに教職課程運営部会を設置し、教学中期計画に基づき、教職課程に関する実行目標を策定するとともに、その達成度を評価し、カリキュラム及び教育方法の改善に努める。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

本学の教員養成の目標である、地域の人々と連携して、地域を牽引していく実践力を備えた教員の養成を実現するため、国際コミュニケーション学科における教員養成の目標を、グローバル化が一層進むこれからの地域社会を担う世代の英語力や異文化理解力を伸長させ、グローバル社会の持続可能な発展に貢献できる教員を養成すること、と定める。

具体的に本学が育成する中学校の英語教員は、小学校の教科「外国語(英語)」を踏まえ、英語の5つの領域(聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表、書くこと)別に設定される目標の実現を目指した指導法を身につける。特に、具体的な場面に応じて話す力を育成できるよう、英語によるコミュニケーションが実際に行われる多文化交流やビジネスの現場などについて理解を深め、生徒が具体的な場面をイメージしながら英語を活用できるよう工夫する技術についても学ぶことを目標とする。

また、高等学校の英語教員は、中学校からCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のレベル等を基準にした段階的な育成目標が設定されることや、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などの適切な理解、さらには発表、討議・議論、交渉などにおける発信能力の育成などの課題に対応するため、国際協力や外交交渉などにおける国際コミュニケーションのあり方を理解し、「英語を身につけるとどんな場合に役に立つのか、また、そのためには、どんな技能が必要か」を生徒に適切に伝えることで、生徒の主体的な学修意欲と統合型の言語運用能力の修得を図る指導法を身につける。また、授業において生徒の模範となるような英語を使えるよう、自身の英語力についても高いレベルを目指す。

この教員養成の目標を達成するための計画について、次の3つを設ける。

- ・学生同士での英語を用いたグループワークの実施や成果を発表する機会を多く取り入れた授業により、自己の考えを深めるとともに、英語を活用した発信力を養う。
- ・必修の応用演習科目により、地域のグローバル化に伴う課題を発見・分析し、問題解決への解を見つけ、提言を行う能力を涵養する。
- ・本学の教育推進センターに設置する教職課程運営部会に英語担当を配し、教学中期計画に基づき、教職課程(英語)に関する実行目標を策定するとともに、その達成度を評価し、カリキュラム及び教育方法の改善に努める。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

本学学部在籍者の7割弱が山形県内からの入学者で、これまでの卒業生の半数弱が山形県内に本社機能を有する企業等に就職をするなど、本学が山形県の人材育成に果たす役割は非常に大きなものとなっている。

一方、文部科学省「英語教育実施状況調査」による山形県の英語力の状況について、高等学校の生

徒では、全国平均近傍まで上昇をしているが、高等学校の教員、中学の生徒、教員では全国平均を下回り続けている現状にある。

本学が国際学部国際コミュニケーション学科を新設することにより、高い英語力と異文化理解力を兼ね備えた英語教員を養成することは、教員の英語レベルの向上と、それに伴う生徒の英語力の更なる向上、及びグローバル化が一層進む地域社会への貢献に寄与するものと期待できる。

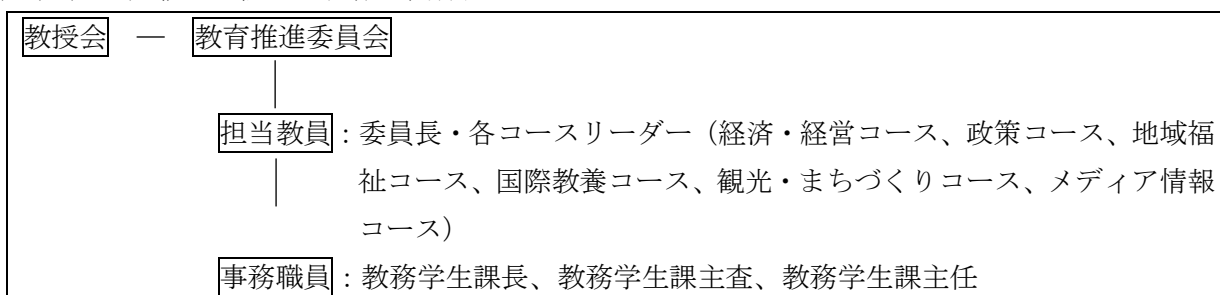
様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教育推進委員会
目的：	人材育成像やディプロマ・ポリシーに基づき、体系的な教育課程の編成を調整する。
責任者：	森元 拓 教育推進委員長
構成員(役職・人数)：	教授4名 准教授2名 教務学生課職員3名(課長、主査、主任)
運営方法：	委員長の他、各コースリーダー及び事務職員で構成されており、毎月1回委員会を開催し、教職を含む全学的なカリキュラムを調整している。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

<p>本学教員が大学所在地である酒田市の教育委員会委員に任命されているほか、地域の高校長会の会長が本学の評議員を務めていることなどにより、連携が図られている。</p> <p>また、酒田市内の小中学校において学習ボランティアへの参加を促している。</p>
--

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	Koeki Kids Project
連携先の調整方法：	担当教員が各小中学校と調整している。
具体的な内容：	庄内地域の小中学校において「公益」をテーマにした授業を実施しており、学生に対して教育実習とは別に教育実践の場を提供している。

III. 教職指導の状況

<p>各学期の授業開始前に教職課程ガイダンスを実施しており、ガイダンスでは「履修カルテ(自己評価シート)」、「教職課程科目履修状況ワークシート」「前学期における教職科目に関する科目の履修状況」に記入させ、記入した履修カルテ等を基に、教職課程担当教員が学生と面談し、履修指導を行っている。なお、面談は、年度初めは教職課程履修者全員に行っているが、秋学期開始時は主に成績不振者を対象としている。</p> <p>教育実習期間中は、メールや電話等により随時学生からの相談に応じている。また、実習中に当該校より要請がある場合には随時訪問し、研究授業の参観や事後指導に参加するなどして、実習生への指導を行っている。さらに、大学での学びが実践的な指導力の向上に資するよう、実習担当教諭や配属学年教諭及び学校長等と意見交換を図り、連携・協力している。</p> <p>進路指導については、教職課程担当教員と面談することで、学生の教職に対する意欲や適性を把握し、教員免許状取得件数、教員就職率を高めている。また、教職に就いた卒業生とも連携し、在学生に向けた話しをしてもらう機会を設け、きめ細やかな指導を行っている。</p>

様式第7号ウ

＜国際コミュニケーション学科＞（認定課程：中一種免（英語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に求められる使命感及び教養並びに基礎的な資質・能力を養う。 ・教育の基礎的理解に関する科目において、特別支援教育についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、外国語発展科目で英語運用能力を身に付けて、基礎的な言語感覚を養う。 ・教育学、A Iと社会、セキュリティ論等の科目を通し、現代社会の教育ニーズに対応する知識を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に求められる使命感及び教養並びに基礎的な資質・能力を養う。 ・教育の基礎的理解に関する科目において、教職に関する入門的な事項及び教育心理学についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、外国語発展科目で英語運用能力を身に付けて、基礎的な言語感覚を養う。 ・英語科教育法Ⅰの履修を通して、英語教育の理論と実践に関する基礎・基本として、学習指導要領、教科用図書、技能・領域ごと・技能統合型言語活動等についての理解を深め、英語指導観を確立する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての幅広い資質・能力の向上を目指し、教育の基礎的理解に関する科目において、教育原理及び教育行政についての理解を深めるとともに、生徒指導や進路指導について理解を深める。 ・介護等体験と道徳教育指導論を通して、中学校教員志望者に必須の実践的知識・技能を身に付ける。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・英語科教育法Ⅱの履修を通して、英語の言語学的な特性について理解するとともに、授業設計や学習評価に関する重要事項についての理解を深める。 ・現代の教育に関する基礎的素養として、憲法及び体育と健康についての理解を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての幅広い資質・能力の向上を目指し、総合的な探究の時間や特別活動の指導法及び教育課程の編成とICT活用を含む教育の方法についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・英語科教育法Ⅲの履修を通して、学習到達目標を踏まえた授業設計についての理解を深めるとともに、学習指導案とテストを作成するための実践的な知識・技能を身に付ける。 ・現代の教育に関する基礎的素養として、憲法及び体育と健康についての理解を深める。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての幅広い資質・能力の向上を目指し、教育相談の理論と方法についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・英語科教育法Ⅳの履修を通して、第二言語習得論の知見を授業に生かす手法を身に付けるとともに、学校における英語指導の多様なニーズに対応する力を身に付ける。 ・専門演習Ⅰにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・専門演習Ⅰにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・教育実習Ⅰ・Ⅱを通して、授業づくりや学級経営を中心に、教員の日常的な業務を体験的に学ぶとともに教員としての使命感の土台を固める。 ・専門演習Ⅱにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・教育実習Ⅰ・Ⅱを通して、授業づくりや学級経営を中心に、教員の日常的な業務を体験的に学ぶとともに教員としての使命感の土台を固める。さらに教育実践演習において、教育実習の振り返りを行い、ディスカッション等を通して各自の気付きや課題意識を共有し、教職に関する学びを総括する。 ・専門演習Ⅱにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。

様式第7号ウ

＜国際コミュニケーション学科＞（認定課程：高一種免（英語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に求められる使命感及び教養並びに基礎的な資質・能力を養う。 ・教育の基礎的理解に関する科目において、特別支援教育についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、外国語発展科目で英語運用能力を身に付けて、基礎的な言語感覚を養う。 ・教育学、AIと社会、セキュリティ論等の科目を通し、現代社会の教育ニーズに対応する知識を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に求められる使命感及び教養並びに基礎的な資質・能力を養う。 ・教育の基礎的理解に関する科目において、教職に関する入門的な事項及び教育心理学についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、外国語発展科目で英語運用能力を身に付けて、基礎的な言語感覚を養う。 ・英語科教育法Ⅰの履修を通して、英語教育の理論と実践に関する基礎・基本として、学習指導要領、教科用図書、技能・領域ごと・技能統合型言語活動等についての理解を深め、英語指導観を確立する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての幅広い資質・能力の向上を目指し、教育の基礎的理解に関する科目において、教職原理及び教育行政についての理解を深めるとともに、生徒指導や進路指導について理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・英語科教育法Ⅱの履修を通して、英語の言語学的な特性について理解するとともに、授業設計や学習評価に関する重要事項についての理解を深める。 ・現代の教育に関する基礎的素養として、憲法及び体育と健康についての理解を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての幅広い資質・能力の向上を目指し、総合的な探究の時間や特別活動の指導法及び教育課程の編成とICT活用を含む教育の方法についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・英語科教育法Ⅲの履修を通して、学習到達目標を踏まえた授業設計についての理解を深めるとともに、学習指導案とテストを作成するための実践的な知識・技能を身に付ける。 ・現代の教育に関する基礎的素養として、憲法及び体育と健康についての理解を深める。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての幅広い資質・能力の向上を目指し、教育相談の理論と方法についての理解を深める。 ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・英語科教育法Ⅳの履修を通して、第二言語習得論の知見を授業に生かす手法を身に付けるとともに、学校における英語指導の多様なニーズに対応する力を身に付ける。 ・専門演習Ⅰにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・専門演習Ⅰにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・教育実習Ⅰ・Ⅱを通して、授業づくりや学級経営を中心に、教員の日常的な業務を体験的に学ぶとともに教員としての使命感の土台を固める。 ・専門演習Ⅱにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教員に求められる専門的教養として、共通専門科目（国際コミュニケーション概論）で英語運用能力を身に付けるとともに、専門基礎科目の英語学・文学、多文化理解、国際社会の各領域から科目を履修して、英語科に関する専門知識を養う。 ・教育実習Ⅰ・Ⅱを通して、授業づくりや学級経営を中心に、教員の日常的な業務を体験的に学ぶとともに教員としての使命感の土台を固める。さらに教育実践演習において、教育実習の振り返りを行い、ディスカッション等を通して各自の気付きや課題意識を共有し、教職に関する学びを総括する。 ・専門演習Ⅱにおいて、各自の興味関心に基づく研究テーマについて、文献調査や社会調査、ディスカッション等を通して探究する。

様式第7号ウ（教諭）

＜国際学部 国際コミュニケーション学科＞（認定課程：中一種免（英語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	特別支援教育			EAP1	西洋史a
					EAP2	西洋史b
					情報リテラシー	国際コミュニケーション概論
						社会学
	後期					ジェンダー論
		教職入門	多文化共生論	教育学	セキュリティ論	世界地誌
		教育心理学			AIと社会	英国庭園文化論
		英語科教育法 I				
2年次	前期	教育原理	英語学概論	介護等体験	体育と健康a	国際社会と法
		教育行政	Advanced English Communication			
		道徳教育指導論	English Presentation I			
		生徒指導論	異文化コミュニケーション			
		進路指導論	英米文化論b			
		英語科教育法 II	国際関係学			
	後期	総合的な探究の時間の指導法	英語音声学		体育と健康b	
		特別活動指導法	英米文学概論		憲法	
		教育課程の編成とICT活用を含む教育の方法	Intensive Reading I			
		英語科教育法 III	Tourism English			
			英米文化論a			
3年次	前期	教育相談の理論と方法	英語音声学演習			
		英語科教育法 IV	英語文学講読a			
			English Presentation II			
			Intensive Reading II			
	後期		英国森林文化論			
			英文法			比較文学
			英語文学講読b			通訳演習
		Academic Writing			国際経営論	
4年次	前期	実習指導				
		教育実習 I				
		教育実習 II				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ（教諭）

＜国際学部 国際コミュニケーション学科＞（認定課程：高一種免（英語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	特別支援教育			EAP1	西洋史a
					EAP2	西洋史b
					情報リテラシー	国際コミュニケーション概論
						ジェンダー論
	後期	教職入門	多文化共生論	教育学	セキュリティ論	世界地誌
		教育心理学			AIと社会	英国庭園文化論
英語科教育法Ⅰ						
2年次	前期	教育原理	英語学概論	道德教育指導論	体育と健康a	国際社会と法
		教育行政	Advanced English Communication			
		生徒指導論	English Presentation I			
		進路指導論	異文化コミュニケーション			
		英語科教育法Ⅱ	英米文化論b			
		国際関係学				
	後期	総合的な探究の時間の指導法	英語音声学		体育と健康b	
		特別活動指導法	英米文学概論		憲法	
		教育課程の編成とICT活用を含む教育の方法	Intensive Reading I			
		英語科教育法Ⅲ	Tourism English			
		英米文化論a				
3年次	前期	教育相談の理論と方法	英語音声学演習			
		英語科教育法Ⅳ	英語文学講読a			
			English Presentation II			
			Intensive Reading II			
		英国森林文化論				
	後期		英文法			比較文学
			英語文学講読b			通訳演習
		Academic Writing			国際経営論	
4年次	前期	実習指導				
		教育実習Ⅰ				
	後期	教職実践演習				